

道徳科学習指導案

主題名「相手を思いやる心」内容項目B－(7) 親切、思いやり

令和5年11月 6年 指導者 金井智之

I 題材の構想

1 価値観

望ましい人間関係を構築するためには、互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠であると考え。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

高学年の児童においては、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになってくる。しかし、時には相手にとってよかれと思った行動が、過度な支援になったり相手の活躍できる場を奪ったりすることにつながることもある。特に、相手に障害があるなど困難な立場に置かれているときに、こういったことが起こりやすい。相手を支えようという心情は、時には相手と自分に優劣の関係を無意識につくっていることも考えられる。

そこで、相手を思いやるというのは、相手の立場になり、本当に相手のためになるかをよく考えることが大事であることに気付き、相手のことを大切に思いやりの心をもとうとする心情を養うことが大切となってくる。

2 児童観

研究協力校の6年生は、学習面や行動面で苦手な活動がある友達のことを手助けするなど、受容的な態度をとれる児童が多い。一方で、自分と異なる特性がある相手に対して距離をとろうとする児童や、苦手な活動がある友達に対してよかれと思って過度に支援しようとする児童も一定数いる。また、周囲からの過度な支援により、自己有用感がなかなか高まらない児童も見られる。

このことから、本授業では、教材を通して、よかれと思ってとった行動でも相手の活躍できる場を奪ってしまうことがあることや、相手の気持ちを考えていない一方的な行動になっていることがあることに気付かせる。その上で、相手のことを大切に思いやりの心をもとうとする心情を育てたい。

3 教材観 教材名「思いやりの行動」(オリジナル教材)

わたし(主人公)は、読むことが苦手なトモ君を助けたいと考え、文章を代わりに読んであげるなどの手伝いを行う。一方、トモ君に対して、他の友達と同じ様に接しているアツシ君と、みんなと同じ活動をすることができて満足そうなトモ君の様子を見て、自分の行動を思い返すというあらすじである。

本教材は、主人公が二つの考えの間で葛藤した点を話し合うことによって、児童自身がしまっているかもしれない様々な大変さがある友達に対する過剰な援助に気付くことができるオリジナル教材である。教材の中では、読むことに大変さがある児童の長所(できる場面)も表現している。また、主人公は、児童と同様に「見えない大変さがある人」について考える授業を行った直後という設定になっており、主人公の心情を捉えやすくしている。主人公が友達に対する接し方と考え方について振り返る場面において、大変さがある友達を援助することと、他の友達と同じように接することのどちらに共感するかを議論することで、本当に相手のためになることに気付き、相手のことを尊重して大切に思いやりの心について考えることができる教材となっている。

4 研究との関わり

これからの共生社会を担う子供たちを育成する上で、小学校段階で多様な個性を尊重し合い、互いに支え合っていける資質・能力を身に付けていくことは必要不可欠である。支え合いというのは、一方が支える側、もう一方が支えられる側という関係ではなく、互いが尊重し合い、それぞれが能力を発揮できる関係で生まれるものである。本研究では、よりよい人間関係の形成について考える学級活動と、見えない大変さがある児童が登場するオリジナル教材を用いた道徳科の授業を中心とした授業プログラムを活用する。事前に行う学級活動で、「障害の有無に関係なく、誰にでも得意・苦手がある」ということに気付き、その気付きを基にして、本時で相手の立場に立ち、本当に相手を思いやった行動について考えることで、誰とでも個性を尊重し合おうとする心情が養えると考え。

Ⅱ 本時の学習

- ねらい 「わたし」がトモ君に対する行動について思い返す場面で、「わたし」の心の葛藤について話し合うことを通して、相手のことを大切にする思いやりの心をもとうとする道徳的心情を育てる。

2 展 開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動と発問 ○：基本発問 ◎：中心発問 ◇：補助発問 S：予想される児童の反応	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ※プログラム手引書にて詳細を解説
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「児童アンケート」の結果を確認する。 <p>S：大変な思いをしている友達に対して、手助けしたいと考えている人は多いのだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの「手助けしない」という意見を取り上げて話し合い、本時のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて></p> <p>相手を思いやるために大切なことは何だろう</p> </div> <p>S：優しくすること。</p>	<p>○児童が主体的に本時で扱う道徳的価値についての問題意識がもてるように、アンケートのそれぞれの考えを取り上げ、多様な考えがあることに気付かせる。</p> <p>○児童が多様な考えをもつきっかけとなるように、「本当に相手を思いやった行動になっているのかな」と問い掛ける。</p> <p>○授業後に自らの考えの変容に気付けるように、めあてについての考えを記入させる。</p>
<p>2 教材文の範読を聞き、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(25分)</p> <p>○「わたし」は、どんな気持ちでトモ君の手伝いをしていたのでしょうか。</p> <p>S：助けたいと思って。</p> <p>○アツシ君の行動を見たときの「わたし」は、どのような気持ちだったでしょう。</p> <p>S：ひどいと思っていた。</p> <p>◎「今までの行動を思い返した」時の「わたし」はどのようなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わたし」は、自分の行動とアツシ君の行動のどちらが正しかったのか葛藤していることを確認する。 ICT等で「わたし」とアツシ君のどちらに共感するか立場を表出し、理由をワークシートに記入し、全体で話し合う。(例：心情メーター)【★共有】 <p>(「わたし」に共感の意見)</p> <p>S：友達に優しくすることは、間違ったことではない。</p> <p>(アツシ君に共感の意見)</p> <p>S：アツシ君の行動は、実はトモ君のことを思った行動だった。</p> <p>◇みんながトモ君だったら、「わたし」とアツシ君の行動はそれぞれどのように思いますか。</p> <p>S：自分でできることは自分でしたいから、アツシ君のように接してくれるとうれしい。</p> <p>S：優しくしてくれているのだから、「わたし」</p>	<p>○中心発問で児童の多様な考えを引き出せるように、教材文を振り返ることで、教材文の前半では「わたし」はトモ君を助けることがよい行動で、トモ君自身に発表させていたアツシ君がよくない行動をしていたと感じていたことを児童の言葉から引き出す。</p> <p>○「わたし」の心の葛藤が視覚的に捉えられるように、基本発問を行いながらトモ君に対する「わたし」とアツシ君の行動を対比させて板書する。</p> <p>○中心発問における話し合いを活性化できるように、ICT等を活用して、「わたし」と「アツシ君」のどちらの行動に共感するかを一覧表示し、自分と違う立場に着目するように言葉掛けをする。(例：心情メーター)【★一覧表示】</p> <p>○多様な考えに触れ、それぞれの考えを深められるように、「わたし」と「アツシ君」それぞれに共感した理由について問い掛け、同じ立場の児童に追加の考えを聞いたり、反対の立場の児童にその意見に対する考えについて聞いたりする。(※)</p> <p>◎優しい行動でも、時には相手のためになっていなかったり、相手を尊重した行動になっていなかったりすることがあることに気付けるように、「わたし」はトモ君を過度に支援してしまったという考えをもっている児童を意図的に指名する。</p> <p>○相手の立場に立った多様な考えがもてるように、「自分がトモ君だったら」と問い掛け、グループで考えを共有させる。</p> <p>○まとめに向けて児童の考えが収束していけるように、「わたし」も「アツシ君」も相手の</p>

の行動もうれしい。	ことを思って行動をしていたことに触れ、その上で「わたし」が葛藤した点を問い掛け、相手の気持ちを考えていなかったことに気付かせる。
3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（5分） ○相手を思いやるには、どういうことが大切なのでしょう。 S：相手の立場に立って考える。 S：どうしたら相手のためになるか考える。	○道徳的価値についての考えが深まっていない児童が、考えを深められるように、中心発問で相手を大切にすることの重要性に気付かせていた児童を意図的に指名する。 ○考えの深まりが実感できるように、導入における考えからの変容に教師が価値付ける言葉掛けをする。（※）
4 前時の学級活動と、本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。（10分） ○学級活動と今日の道徳で考えたことを参考に、今までの自分、今の自分、これからの自分という視点で振り返ってみましょう。	◎「自分も支えられている」「人によって考え方を変えてはいけない」という考えがもてるように、事前の学級活動と本時の内容を想起してから振り返るよう促す。
〈振り返り〉 S：今までは、相手のことをあまり考えずに、自分が優しいと思う行動をしていたけど、本当の思いやりは、相手のことを考えるということが分かったから、本当に相手のためになることを考えていきたい。 S：誰にでも得意なことや苦手なことがあるのだから、お互い支え合っていくことが大切である。	

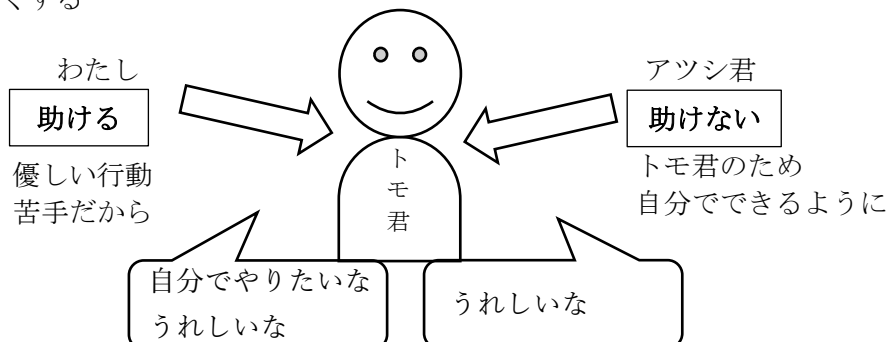
◆評価の視点

- ・発言、ワークシートの記述から、「人を思いやるために、相手のことを大切にすることの大切さや難しさなどを多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言、ワークシートの記述から、「自分や周囲の人間関係について振り返り、相手を思いやることの大切さについて考えている」姿を見取る。

3 板書計画

㊦ 相手を思いやるために大切なことは何だろう。

やさしくする



※大型モニターに、児童アンケートの結果と心情メーターを表示する。

Ⅲ 備 考

1 他教科等（道徳、自立活動も含む）との関連

前時 学級活動

ねらい：見えない大変さの有無に関係なく、誰にでも得意なことや苦手なことがあることに気づき、よりよい人間関係の形成に向けた考えをもつ。



本時

2 参考文献、著作権関係等

- (1) 文部科学省（2017） 『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編（平成 29 年告示）解説』
- (2) 群馬県教育委員会（2019） 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- (3) 水野智美（2016） 『はじめよう！障害理解教育』 図書文化
- (4) 文部科学省（2022） 『生徒指導提要』